2013 年度

事業報告書

2013.4.1－2014.3.31

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

http://www.women.city.yokohama.jp

目　　次

2013 年度事業報告　総括･･･ 1

Ⅰ　事業実施の状況

1　情報事業･･･ 3

2　調査研究・事業開発事業･････････････････････････････････････ 5

3　広報啓発事業･･･ 7

4　相談事業･･･10

5　講座事業･･･17

6　協働連携事業･･･35

7　男女共同参画推進施設管理運営事業･････････････････････････････45

Ⅱ　施設利用状況・施設管理業務実施状況･････････････････････････46

2013 年度事業報告　総括

2013 年度は第 2 期指定管理期間の 4 年目にあたります。この 4 年間で、社会は大きく変化しました。男女共同参画の推進に影響が大きい変化として、次の点を指摘することができます。

1 点目は東日本大震災の発生がもたらした衝撃です。被災地での経験から、女性の視点を踏まえた防災や災害対応の必要性が改めて認識されたこと、大規模災害時には自助、公助と並んで、地域における共助の大切さが強調されるようになっていることがあげられます。2 点目は経済政策と社会保障政策をめぐる変化で、経済の活性化のために女性の活躍が要請されるようになっている一方で、社会全体として所得格差が拡大していることが指摘されており、生活に困窮する人々への支援が課題となっています。3 点目としては、殺人にまで至る DV やストーカー事件が社会問題化し、法改正によって被害者保護のための対応の強化が行われると同時に、防止啓発の重要性が以前にも増して指摘されています。

（公財）横浜市男女共同参画推進協会では、こうした社会の変化を踏まえたうえで、横浜市第 3 次男女共同参画行動計画に基づいた事業を実施しました。

1　地域における男女共同参画を推進する取組

防災は地域における男女共同参画を推進していく際の有効な切り口です。当協会では、女性の視点に立った防災をテーマとする事業の展開を通して、自治会・町内会や子育て支援拠点などとの連携を深めてきました。2013 年度はこれまでの取組を継続したほか、地域防災を担う女性人材の発掘とリーダーシップ開発を目的とした講座の実施や、区役所と協働して、地域防災拠点関係者を対象に防災学習会を開催し、女性の視点を踏まえた避難所運営についてのパンフレットを作成するなど、事業を発展させました。

2　女性の就業支援事業についての追跡調査実施

当協会では、1988 年の「横浜女性フォーラム」開館以来、女性の就業支援事業に力を入れてきました。「女性のための再就職準備講座『ルトラヴァイエ』（以下、ルトラヴァイエ）」、「女性起業家たまご塾（以下、たまご塾）」、「ガールズ編　しごと準備講座（以下、ガールズ講座）」＆「めぐカフェ」就労体験事業は、当協会が独自に開発し、定番プログラムとして実施を重ねてきたものです。今回、これらのプログラムの修了者追跡調査を実施して、その有効性を検証しました。

「ルトラヴァイエ」修了者追跡調査実施は 4 回目になります。今回の調査では、受講時に就労していなかった回答者の 7 割近くが受講後 1 年以内に再就職を果たしており、調査時点では回答者の 8 割が就労していることがわかりました。

女性起業家支援も開館以来継続してきましたが、「たまご塾」は 2007 年度から開始した集中的な連続講座です。今回の調査では、回答者の 8 割は起業したことが把握できました。

若年無業女性への支援は、女性の就業支援事業のなかではもっとも新しいプログラムで、「ガールズ講座」は 2009 年度から、「めぐカフェ」就労体験事業は 2010 年度から開始しました。今回の調査では、回答者の 6 割が修了後に収入のある仕事に就いたことがあるとの結果を得ました。

これらの結果から、それぞれのプログラムの有効性を確認することができました。有効性の検証に加えて、改めて確認された問題点は、今なお他者へのケア役割を女性が主として担っている場合が多く、女性は仕事に十分な時間とエネルギーを注げない状況があることです。結果として、女性の働き方の選択肢は限定されがちです。このことから指摘できるのは、男性を含めたワーク・ライフ・バランスが実現されなければ、女性には二重の負荷がかかり、仕事の場で十分に力を発揮することは難しいということです。「ガールズ講座」の修了者追跡調査からも、「親・きょうだいなど家族の面倒をみなくてはいけなかった」という回答が 1 割を超えており、就労による自立を目指している状況でも、女性は家族へのケア役割を期待される場合が少なくないことを示しています。

３　女性の活躍支援

近年、国においても、横浜市においても、女性の活躍の場を広げることにより、社会経済の活力をアップさせていこうという方向での政策が打ち出されています。当協会では、昨年度同様、横浜市市民局との共催により、「横浜女性ネットワーク会議」を開催しました。また、新規事業として、将来のリーダー層となる働く女性の学びと交流を促進することを目的に、「しなやかに！したたかに！女性リーダーのための仕事力 UP 塾」を実施するなど、キャリアアップを目指す女性たちを応援する事業に取組みました。

４　デート DV 防止啓発事業

2013 年度はデート DV 防止啓発の取組みを拡大しました。実施にあたっては、若い世代に積極的に働きかけること、若い世代が防止啓発活動に主体的に関与できる形での展開を図ること、若い世代の心に届くメッセージを発信することを大切にしました。継続事業として行っている市内の学校へのデート DV 防止啓発出前講座については、2013 年度は 24 校で実施、約 4,700 人の生徒が参加しました。フェリス女学院大学ハラスメント防止委員会との共催講座「いっしょに考えるデート DV」では、大学生が登壇者となり、パネルディスカッションを行いました。「STOP!　デート DV　写真展」は高校生を被写体とした写真とメッセージの展示です。若い世代や親世代に届けようという意図から、みなとみらい地区の商業施設で実施し、10～20 代を中心に約 500 人が来場しました。

Ⅰ　事業実施の状況

1　情 報 事 業

情報事業では、センター横浜の情報ライブラリ、センター横浜南の資料室、センター横浜北の交流ラウンジを中心に、男女共同参画の専門図書館としての特徴を生かし、さまざまな媒体の情報を収集・提供しています。資料は、独自分類（A 女性論とその周辺、B 生きかた・しごと、C こころとからだ、D 生活と芸術・文学、E 情報と市民活動、F 国際協力と開発）を採用し、利用者が課題解決に役立つ資料を探し出しやすいように工夫して、配架しています。また、テーマを設定しての資料展示、資料リスト作成、メールマガジンや SNS 活用など、情報発信にも力を入れています。

◆2013年度利用状況

情報事業では、2013 年度、3 館で資料の貸出限度数をこれまでの 6 冊から 10 冊に拡大、利用者アンケートでも好評を得ています。

3 館合計の資料貸出数、相互貸借数、資料予約数、ライブラリカードの新規登録者数が、前年度に引き続きすべて増加、貸出限度数の増加に伴って減少が懸念された貸出利用者数も、引き続き増加しました。

◆小学生コーナーの新設と展示による情報発信

センター横浜では、これまで利用の少なかった小学生の利用を促進し、将来のセンター利用者として親しんでもらうために、情報ライブラリに小学生コーナーを新設しました。センター横浜北では、子どもの部屋に隣接して設置した絵本コーナーが好評です。

情報ライブラリに新設した小学生コーナー

発信するライブラリとしての取組みも、引き続き積極的に行っています。一つのトピックについて、3 人の専門家が男女共同参画の視点で選んだ推薦本を展示する「おすすめ本フェア」では、「メディア・リテラシー」と「男性と男女共同参画」をテーマに開催、センター3 館で巡回展示が終了したあとは、公共施設・団体等にセット貸出を行いました。

そのほか、センター横浜が月変わりで企画している「月別テーマ展示」を 3 館で巡回したほか、館ごとに独自で、「女性と発達障がい」やマーガレット・サッチャー元英国首相の追悼展示など、講座や相談などの事業やその時々の社会のできごとに関連したテーマで展示を行いました。セン

ター横浜では 51 テーマ、センター横浜南では 9 テーマ、センター横浜北では 17 テーマの展示を実施しました。

◆新着図書ピックアップ、メルマガ・SNS 等を利用した情報発信

資料収集・提供の 3 館の中心館であるセンター横浜では、3 館の新着本を案内する「新着図書ピックアップ」を作成し配布しました。講座や相談などの利用者に資料を活用してもらうための課題別資料リストも作成し、3 館で配布するほか、ホームページでも公開しています。おすすめ資料の情報を発信するメールマガジン「きらり☆ライブラリ＠フォーラム」は毎月発行、Facebook 等の SNS やホームページで新着図書情報、テーマ展示の案内等を随時発信して、来館しにくい市民にも情報が届くように努めています。

＜利用者の声＞

- スタッフのおすすめ本や話題の本などの展示、また、新聞の切り抜きを利用した分かりやすい展示で、普段、手に取らないテーマの本も興味を持つことができる。（センター横浜）
- 女性問題の本が入口に展示されているので、思いがけず良い本に出合うことができる。（センター横浜）
- 自分を高めたいと思ったとき、目的とする本がはっきりしていなくても「これ読んでみよう」と思う本に出会えて学ぶことがある。（センター横浜）
- 新刊のエッセイや小説も多々入ってくるので、HP で検索するのが楽しみです。
  貸出冊数や予約冊数が増えたのも、とても助かります。（センター横浜南）
- 仕事に役立つので助かっています。管理職を目指しているので、コミュニケーションやアサーティブ、コーチングの本があると嬉しいです。（センター横浜南）
- 興味が持ちやすい題名の本が多いので、楽しいです。（センター横浜北）
- ていねいに対応してくださり、本もきれいで気持ちよく借りています。（センター横浜北）

２ 調査研究・事業開発事業

男女共同参画に関する事業を企画するうえで、実施した事業の有効性を検証し、その結果を次の事業に活かしていくことが重要です。協会では、設立当初から「女性の就業支援事業」に注力してきましたが、第 2 期指定管理期間中に実施した女性の就業支援 3 事業について、修了者の追跡調査を行いました。ほかにも「市民との協働事業」について調査したほか、栄区と協働で、女性の視点を生かした避難所運営に関するパンフレットを作成しました。

◆女性の就業支援（起業支援、再就職支援、若年無業女性支援）事業修了者追跡調査

2013 年度、第 61 期を迎えた「女性のための再就職準備講座『ルトラヴァイエ』」は 1988 年の横浜女性フォーラム開館以来実施している事業であり、これまでに 3 回の修了者追跡調査を実施してきました。前回の 2006 年度の調査から 7 年が経過し、女性をとりまく社会や雇用状況も変化していることから、今年度、追跡調査を実施しました。これに加え、2007 年度よりスタートした「女性起業家たまご塾」、2009 年度より開始した若年無業女性を対象とした「ガールズ編 しごと準備講座」等の自立支援事業の修了者に対する追跡調査もあわせて実施しました。

◆市民協働事業調査

3 館で公募し、8 年にわたり展開してきた「市民・NPO がつくる男女共同参画事業」の成果と課題を整理・検討し、事業のあり方を再考するために調査を行いました。調査では、6 ヵ所の男女共同参画センターへの事例調査と 7 名の NPO 代表・有識者等へのヒアリングを行い、「公募型『市民・NPO がつくる男女共同参画事業』の今後を考える調査報告書」としてまとめました。

◆若年女性の社会参加体験プログラム開発・実施

2010 年度よりセンター横浜南で若年女性の就労体験事業を行う中で、ひきこもりの年数が長い、あるいは一度も働いたことがないという若い単身女性の存在が明らかになりました。そうした女性には就労体験の前に地域社会で人とのつながりを体験することが必要です。そこで、地域の市民団体等の協力を得て「若年女性の社会参加体験プログラム」を開発・実施しました。センターの呼びかけにさまざまな団体が理解を示し、積極的にボランティアの受け入れを表明。2013 年度に 4 回、地域の祭りや子ども向けイベントでの体験事業を実施しました。ボランティアを体験した参加者

蒔田公園でのイベント
ボランティア体験

からは「充実感があった」「子どもとふれあうことが好きな自分を発見した」「団体スタッフの方がやさしく教えてくれた」等の感想が寄せられました。

◆避難所運営に関するパンフレット作成

過去の災害において、避難所で女性への配慮が十分なされなかったことは、大きな課題となりました。事業本部事業企画課では、横浜市栄区と協働で、地域防災拠点を対象とした防災学習会を開催し、避難所で女性が安全・安心な生活を送れ、女性の声が通りやすい環境づくりをすすめるためのガイドラインとして、「栄区 みんなにやさしい避難所運営～女性・男性がともにつくる安全・安心な避難所～」というパンフレットを作成しました。イラストを多用し、文字も大きめにして、見やすくわかりやすいパンフレットとなっています。

『栄区 みんなにやさしい避難所運営』
パンフレット

３ 広報啓発事業

男女共同参画についての理解を広め、その必要性を理解してもらうことが、男女共同参画を社会に推進していくための第一歩です。しかし、性別役割分担意識や差別意識は長い時間をかけて形成されてきたものであるため、継続的な広報・啓発が必要です。協会では、多様な媒体を通して、男女共同参画の啓発とセンター3 館で実施する事業の広報に取り組みました。また、啓発セミナーの開催、学校・行政機関・自治会等が主催する研修会への職員の講師派遣などにより、男女共同参画の理解促進を図りました。

◆広報事業

Web 媒体による広報では、ソーシャルメディアを活用した情報発信に力を入れ、現在 12 のアカウントを登録しています。講座「シリーズ 格差社会と女性」やセンター横浜「開館 25 周年記念ソング&PV（プロモーションビデオ）制作」事業では、事業ごとに Twitter アカウントを取得して情報発信を行いました。このほかにも専用サイト、ブログ、メールマガジンなどを活用し、2013 年度の協会ホームページのトータルアクセス数は 1,275,543 件となり、前年度比 108%と増加しました。

『フォーラム通信』春号

紙媒体では、広報・啓発誌『フォーラム通信』、『F ナビ』等の協会独自の印刷物を発行しました。『フォーラム通信』では、地域での子育て支援の取組み、ワークライフバランス、男性にとっての男女共同参画を特集のテーマとして取り上げました。このほか、新聞、地元ラジオ、タウン紙等の外部媒体に対しても随時、情報提供を行い、男女共同参画事業を積極的に伝えるように努めました。

◆啓発セミナー等

センター横浜、センター横浜北では、男女共同参画啓発講座を実施しました。

「シリーズ 格差社会と女性」

センター横浜では、「シリーズ 格差社会と女性」と題し、皆川満寿美さんによる統計データを用いた男女共同参画社会の課題の読み解きをベースに、ワールドカフェという話し合いの手法をつかって、参加者が意見交換する講座を開催しました。終了後の感想では、現代社会の課題が理解でき、立場や世代の異なる者同士が十分話せたという声が聞かれました。

センター横浜北では、「格差社会の処方箋～“不平等感”から“お互い様へ”」を白波瀬佐和子さんの講演として実施し、格差を生み出す社会背景や格差が生き方にどのような影響をもたらすか、データをもとに社会学的視点で考えました。

女子児童の理系進路選択を応援する「理科っておもしろい！女の子だけの実験教室」は、（公財）横浜市みどりの協会の協力のもとに、よこはま動物園ズーラシア職員を講師に迎えて、センター横浜で行いました。ゾウのフンの繊維で紙漉きをして和紙を作り、実際のフンやキバを触り草食動物の生態について勉強しました。

「理科っておもしろい！
女の子だけの実験教室」

このほか、センター横浜で開催した「女性と発達障がい～講演＆イイトコサガシワークショップ」には、定員を上回る参加者が集まりました。女性の発達障がいは周りに気づかれず、見えにくいと言われています。講師からは、困っていることを発達障がい当事者とその保護者が、子どものころから時間をかけて受けとめ、学校の教員や支援機関からのサポートを得ることで生きづらさは大きく軽減されるということや、自己肯定感を持つことが最も大切という話があり、参加者から多くの共感が寄せられました。講演後は、実践的なコミュニケーションワークショップを行いました。

◆若い世代に向けたデート DV 予防啓発写真展の取組み

広告制作のプロ集団（株）電通と、高校生を被写体に多くの作品を手がけている写真家との協働および横浜市市民局の共催を得て、みなとみらい地区の商業施設での初の展示「STOP!　デート DV　写真展　photo by 小野啓」を開催しました。4 日間で約 500 人の来場者があり、日ごろ男女共同参画センターになじみのない 10 代､20 代の若者やその親世代の層がふらっと会場を訪れる姿が目立ちました。メッセージノートには､「高校生の真剣な目が感動的だった」「心にずーんときた」といった声が寄せられ、写真や言葉の力によって、当事者や周りが気づきにくい「デート DV」という「問題」を自身や周りに引き付けて考える場をつくることができました。

「デート DV 写真展」の会場のようす

◆開館 25 周年記念の歌と映像の制作

センター横浜では 2013 年、開館 25 周年を記念して利用者から歌詞の素材となるメッセージを募集し、戸塚区密着型女性シンガーソングライターkaho*さんによる歌と記念映像の制作を行いました。できあがった作品「ひとりじゃないよ」は秋のフォーラムまつりで披露、協会 YOU TUBE チャンネルでも配信しています。

kaho*「ひとりじゃないよ」
～開館 25 周年記念 PV

◆研修講師派遣事業

研修講師派遣事業では、セクシュアル・ハラスメントの防止や、『YOKOHAMA わたしの防災カノート』を活用しながら女性の視点・力を活かした防災ワークショップの依頼を多く受けたほか、男女共同参画、DV 等のテーマで講師派遣を行いました。また、横浜市の審議会や各種会議等にも、外部委員として参画しています。

＜利用者の声＞

- 統計から世の中の不合理が次々見えて、大変興味深かった。現状をしっかり勉強する講座を増やしてほしい。（シリーズ　格差社会と女性）
- 複数のデータを読み解きながらのお話で、人口学的な視点から日本社会を見ることができ、大変勉強になりました。（格差社会の処方箋～“不平等感”から“お互い様へ”）
- デートDV という言葉は知っていましたが、今まではいまいち実感のないものでした。今回、セリフ調の言葉と写真があったせいか、リアルに感じられました。（STOP!　デートDV　写真展　photo by 小野啓）
- ゾウのウンチが重くてびっくりした。ゾウのこともくわしくなれたし、とても楽しかった。（理科っておもしろい！女の子だけの実験教室）
- 大人の発達障がい自体があると思わなかった。難しい個性だと思っていた。障がいという特性を理解していたらきっと対応も異なっていただろう。（女性と発達障がい～講演&イイトコサガシワークショップ）

4　相 談 事 業

（1）心とからだと生き方の総合相談

「心とからだと生き方の総合相談事業」は、固定的な性別役割や男女格差に起因する生きづらさを受けとめ、性別役割観にとらわれない視点を相談者に提供しつつ、相談者自らが課題を整理し、解決していくプロセスを支援しています。自助グループへの支援にも力を入れており、同じ問題に直面する当事者同士の支え合いを大切にしていることも相談事業の特徴です。相談者には、センター3 館で実施する関連講座、サポートグループ、自助グループ、情報ライブラリの関連資料など多様な資源のほか、福祉等の制度利用についても紹介しました。また、DV 被害の相談については安全を最優先した対応を行いました。

◆個別相談

電話相談は、2010 年度よりセンター横浜の「心とからだと生き方の電話相談センター」（休館日を除く毎日 9 時～16 時、祝日を除く月曜・金曜は 18 時～20 時も対応）で集中的に対応しています。また職員による面接相談および弁護士・医師相談は、相談者の希望に応じて各センターで実施しています。

相談室

相談件数は電話相談 4,112 件、面接相談 333 件（3 館）、弁護士・医師相談 60 件（3 館）となりました。相談内容のうち、電話相談の 16%、面接相談（弁護士・医師相談含む）の 54.1%が DV についての相談でした。横浜市 DV 相談支援センターが 2011 年 9 月に開設されて以来、電話相談については DV を主訴とした相談割合は年々低くなっていますが、面接相談については DV についての相談が最も多く、相談者の安全、安心に配慮した環境で対応しています。また、自立支援の一環として、相談者に役立つ男女共同参画センターの資源に関する情報提供も行っています。

一方、メンタルヘルスに関する相談対応については、相談員が精神科医に助言を得られる態勢を整えました。DV と子どもへの虐待は複合して起きている場合が多く、子どもへの虐待の恐れがある場合は、児童相談所、区福祉保健センターなどの関係機関と緊密に連携をとりながら相談を進めました。

1 月から 3 月にかけて、面接相談利用者に対して、満足度を問うアンケートを実施しました。①「安心して相談できたか」については、「大変安心できた」「安心できた」合わせて 100%、②「相談員の対応について」については「とてもよかった」「よかった」合わせて 97%、③「気持ちの整理に役立ったか」については「大変役に立った」「役に立った」合わせて 97%、④「役立つ情報、知識が得られたか」については「充分得られた」「得られた」合わせて 91%という結果

となり、高い評価を得ることができました。

◆DV 被害女性のためのグループ相談

同じような体験をした人と語り合い、思いを共有したいというニーズに応え、DV 被害を受けた女性のグループ相談を 3 コース実施しました。グループ相談は、それぞれが直面したつらい経験や不安や怒りなどの気持ちを徐々に言葉に出すことで、自分の体験を客観化・相対化できるという効果と同時に、体験者同士の共感の場、自分一人ではないと気づく場、支え合いの場となっています。これまでのグループの中で子どもについて話題にのぼることが多かったことから、2013 年度は DV の子どもへの影響を心配している女性のためのグループを新設しました。加害者と別居している女性のグループ、加害者と同居している女性のグループ、DV の子どもへの影響を心配している女性のためのグループのいずれについても相談員がファシリテーターを担い、グループ全体の安全に配慮しながら、参加者が安心して発言でき、一人の発言が他の参加者の気づきにつながるように留意して進行しました。

◆自助グループ支援事業

生きづらさや依存症など、同じ悩みを抱える仲間が集まる自助グループを公募し、気持ちや情報などを分かち合うミーティングのためのスペースの無料提供や保育などの支援を行いました。2013 年度に支援した自助グループ数は、センター3 館で 41 グループにのぼり、ミーティング参加者は、のべ 6,446 人となりました。アルコール、ギャンブル等の依存症者のグループ、依存症者の家族のグループ、摂食障害本人のグループ、子どものころに家族のなかで十分に愛されなかったといった傷つき体験をした人たちのグループ、DV 被害女性のグループ、性による傷つき体験をなかまと分かち合うグループ、セクシュアル・マイノリティ当事者のグループ、障がいがある子どもを持つ親のグループなど、さまざまな自助グループがセンター3 館で定期的にミーティングを開いています。

テーマはさまざまであっても、悩みに直面した当事者が「生きづらさ」を核にしてつながり合って、回復と成長の糧にしていくダイナミックなプロセスには共通点があります。センターでは、自助グループが安心してミーティング活動を継続できるように支援するとともに、グループ運営の悩みについて、グループ同士が交流しあう場を設けるなどの間接支援も行いました。

グループの安全を守るため、場所や日時を非公開としている場合は、相談員が参加希望者に事前ヒアリングを行い、自助ミーティングにつなげました。

＜利用者の声＞（すべて面接相談）

- ずっと人に言えず、一人で悩み苦しんでいたことを、話を聞いてくださって、重たい心が軽くなり本当によかったです。
- 不安なときに、お話を聞いていただけて、心の支えになりがんばることができました。
- 自分の立場を客観的に知っている人がいると、とても心強く感じました。
- とても優しく迎えて下さり、日ごろの緊張がほぐれました。

（2）横浜市 DV 相談支援センター

横浜市男女共同参画センターは、DV 防止法に基づく横浜市 DV 相談支援センターとしての役割を担っています。横浜市における DV 被害者支援は、こども青少年局内に設置されている統括・調整部署、各区福祉保健センター、男女共同参画センターの 3 組織が一体となって DV 相談支援センターとして機能している点に特徴があります。3 組織で連携してケースワークを行うほか、定例の連絡会や合同スーパービジョンを通じて情報共有や支援の質の向上に努めています。また、「心とからだと生き方の総合相談事業」で培った専門性を活かした継続的な面接による心理的支援に加えて、相談者の回復と自立を支援するために、サポートグループや自助グループ、センター3 館で実施している就業支援事業の紹介などを行いました。

◆DV 相談支援センター業務

男女共同参画センターが担う DV 相談支援センターの業務は、①専用回線による電話相談、予約制の面接相談、②被害者の安全や問題解決に役立つ情報提供、③関連する福祉制度の利用における情報提供・助言、④来所相談証明書の申請受付・交付、⑤一時保護に関する助言、⑥保護命令に関する相談、地方裁判所への書面提出、⑦被害者の自立や心身の回復を支える男女共同参画センターの資源・機能活用に関する案内です。

男女共同参画センターが担った相談内容は、加害者からの暴力による心身への影響に関するものが最も多い結果となっていますが、加害者の行為が DV にあたるものかどうかについての相談や、離婚をめぐる加害者への恐怖や将来への不安などの相談も多い状況でした。刃物が持ち出される、首を絞められるといった身体的暴力については、安全確保を第一優先として、身近な警察署や区役所への相談の必要性などもあわせて伝えています。

面接相談では、必要に応じて弁護士相談、医師相談を行ったほか、法律講座、就業支援関連の講座や相談、自助グループについて情報提供するなど、男女共同参画センターがもつ資源を活用した支援を行いました。

一時保護や福祉制度利用のニーズがあるケースについては、こども青少年局と連携をとりつつ、区福祉保健センターに照会し、児童虐待が起こっているケースについては児童相談所、区福祉保健センターと連携して対応しました。

また、2011 年 9 月の開設から 2 年を経て、課題を共有し、よりよい支援を行うことを目的として、統括・調整部署、市民局男女共同参画推進課とともに「横浜市ＤＶ相談支援センター相談業務の改善に向けた検討会」を年度内に 3 回開催し、うち 1 回は困難ケースの検討を行いました。

（3）性別による差別等の相談

横浜市男女共同参画推進条例第 10 条に基づき、女性であること、男性であることを理由とした不利益な取扱いなど、性別による差別等により人権が侵害された場合の相談を受けています。「相談の申出」を受けた場合には、解決に向けた希望などを聞き、複数の専門相談員（※）が対応について話し合い、調査を行います。また、必要に応じて、人権侵害の改善に向けた要請・指導を関係者に行っています。

◆相談・問合せ状況

電話等による年間の相談・問合せ件数は 89 件で、前年度の相談・問合せ件数に比べて 4 件増加しました。

相談・問合せの内容で多いものは、「セクシュアル・ハラスメント」が 20 件（22.5%）、「制度・内容（横浜市男女共同参画推進条例第 10 条に関する問合せ）」14 件（15.7%）、「その他」11 件（12.4%）となっています。「セクシュアル・ハラスメント」20 件の相談のうち 11 件が職場におけるハラスメントの相談でした。

相談・問合せの男女比は、女性が 74 件（83.1%）と引き続き高い傾向にあります。男性からの相談・問い合せは 13 件（14.7%）、機関等からの問合せが 2 件（2.2%）ありました。

今年度も、申出を検討したいとする相談者のケースは数件ありましたが、この制度においては匿名での申出ができないため、今後の就業継続や人間関係の影響への心配から結果的に申出を躊躇する状況が見られました。

◆今年度取扱事案

今年度新たに提出された、条例に基づく申出事案 1 件について、専門相談員により検討を行いました。

申出事案の内容は、大学におけるハラスメントに関するものでした。

※専門相談員
当協会が委嘱した、男女共同参画に高い見識を有する学識経験者、人権擁護委員、弁護士の計 4 名により構成しています。専門相談員は申出者との面談、調査の必要性の検討、関係者への調査など、申出事案の対応処理において重要な役割を果たしています。専門相談員会議は原則として毎月1回開催され、個々の申出事案についての処理方針等を検討します。

（4）女性のしごと相談ステーション

子育てや介護と仕事の両立、男性に比べて多い非正規雇用、キャリア形成のむずかしさなど、「女性と仕事」というテーマには多くの課題があります。こうした状況をふまえて、センター3 館で、働きたい女性・働く女性を対象に、就職・転職、労働問題、起業など、就労に関わるさまざまな相談を実施しました。社会保険労務士、キャリア・コンサルタント、起業アドバイザーなどの専門家が、女性が働くうえで直面する多様な相談に当たりました。

◆しごとの相談

「キャリア・コンサルタントによる女性のための就職・転職相談」（センター横浜、センター横浜北）、「女性の“働く”悩み相談」（センター横浜南、センター横浜北）、「シングルマザーのための就労相談」（センター横浜、センター横浜北）を実施し、計 122 件の相談を受けました。「キャリア・コンサルタントによる女性のための就職・転職相談」はほぼ毎回キャンセル待ちとなるほど高いニーズがありました。相談内容はさまざまで、「仕事から長年遠ざかっているので求職活動の方法を知りたい」「現職が合わないので転職したい」「離婚を考えているが仕事はどうしたらよいか」などがあり、終了後のアンケートには、相談後に方向性が見え始めたという感想が多く書かれています。

「シングルマザーのための就労相談」は横浜市母子家庭等就業・自立支援センターの就労支援員を相談員に迎え、必要に応じて区福祉保健センター等で引き続き相談ができるようにサポートしました。終了後のアンケートには「自分の長所を見つめなおせた」「考えを整理できた」との感想が寄せられました。

◆起業相談

センター横浜の女性起業 UP ルームで受けている「女性のための起業準備相談」と「女性起業家のためのホームページ診断」の年間の相談件数は合計 198 件、月平均で 17 人程度の利用がありました。起業アドバイザーでもある専属ナビゲーターの実践的で具体的なアドバイスが好評です。

「あいまいだった課題が形になってみえてきた」「ホームページの改善点が具体的にわかった」などのほか、「実際に連絡のとれそうな先輩を紹介してもらえてありがたかった」という声もあり、7 年目を迎えた女性起業 UP ルームのネットワークが活かされています。

「女性起業家のためのホームページ診断」

＜利用者の声＞

- 相談員の方が女性なのでとても話しやすく、話を聞いてもらえるだけで気持ちが楽になりました。頑張って前へ進む気持ちになりました。（女性の“働く”悩み相談）
- 一人で考えていると困難を感じて煮詰まりますが、相談して精神的に楽になりました。ありがたいです。（シングルマザーのための就労相談）
- 自分のことを整理でき、すっきりしました。就職活動のための一歩が踏み出せた感じがします。（キャリア・コンサルタントによる女性のための就職・転職相談）
- 思い込みをはずせました。広い視野で、客観的に自分と自分の商売のイメージを見つめなおすことができました。（女性のための起業準備相談）
- 具体的に修正するポイントがわかってよかった。また他の方の参考例を見せていただいて参考になりました。（女性起業家のためのホームページ診断）

５　講 座 事 業

（１）女性の就業支援事業

雇用の場での女性の活躍や女性起業家の活躍は、社会経済の活性化に大きく寄与します。センター3 館では、それぞれの立地する地域のニーズと館の機能をふまえながら、女性の経済的・社会的な自立を支援する目的で、女性の就労とキャリア形成をサポートする事業を実施しました。センター横浜では、起業を目指す女性に対する支援と、母子家庭の母親や働きづらさを抱える若年無業女性など、厳しい経済状況下にある女性たちへの就労支援を実施しました。センター横浜南では、若年無業女性のための就労支援講座修了者等に就労体験の場を提供して、市内の若者支援機関と連携しながら自立へのプロセスを支援しました。センター横浜北では、離職中の女性が自分の状況に合わせて一歩を踏み出すための再就職支援と、就業中の女性がキャリアを継続し職業能力を向上させるのに役立つ事業に取り組みました。

◆起業支援事業

センター横浜の女性起業 UP ルームでは、起業に関心がある女性が段階別に受講できる「女性のための起業準備セミナー」の基礎編・助走編・実践編のほか、自分に必要な知識やノウハウを学べるテーマ別「女性の起業に役立つスキルアップセミナー」、具体的な事業プランをもつ人のための連続講座「女性起業家たまご塾」（前期・後期）を実施しました。受講者は年間で 352 人、開催したセミナー・講座の 9 割が定員を超える申込みを受けました。

「女性のための起業準備セミナー」

7 期目となる「女性起業家たまご塾」は、収益が出るしくみを徹底的に検証する前期「事業プラン完成コース」と、売れるサイトの戦略を学ぶ後期「IT 活用販促コース」を実施、並行して立ち上げた Facebook グループ等への受講者の投稿数は 1,163 通にのぼりました。

たまご塾修了者への支援として、事業を紹介する「スタート UP サロン」およびイベント「女性起業家マルシェ」を新規開催しました。

また、（公財）横浜企業経営支援財団と合同で、横浜市の女性対象の起業支援が一覧できるパンフレットを制作、同財団との共催で講座も開催しました。このほか、横浜市経済局が統括し、みなとみらい地区で実施したイベント「ウーマンビジネスフェスタ 2013」にも共催団体として参画し、女性起業入門セミナーを企画・運営して、横浜市や他機関との連携を深めました。

また、戸塚図書館へ「女性起業準備セミナー」を出前して実施したところ、定員の 2 倍近くの申し込みがあり、センターの利用者とは異なる層に事業を届けることができました。

センター横浜南では、交流ラウンジで「小箱ショップ」を運営し、女性たちの小さな起業を支援しています。年間でのべ 94 件の出店があり、東日本大震災支援として、被災地の女性が避難所で作成した布製小物の販売も継続しました。

◆シングルマザーの就労支援事業

センター横浜で昨年に引き続き実施した「シングルマザーのためのミニ就職ガイダンス」は、定員 8 人の少人数で、母子家庭支援制度、求職の仕方や応募書類の書き方など、シングルマザーが求職するときに必要な情報提供を行いました。

また、事業本部事業企画課では、神奈川県・横浜市等 5 自治体から「シングルマザーの就職・転職応援セミナー」を受託して、センター横浜、センター横浜北を会場に 12 講座を開講、申込者は合計 120 人に上りました。ライフプランを描くことで自己理解を深め、就職活動に直結する面接や履歴書の書き方などを学ぶプログラムで、参加者からは「今のことでいっぱいで中長期的な目標を考える余裕がなかったが、セミナーがいいきっかけになった」「仕事を探すことが楽しくなった」などの感想が寄せられました。

◆「ガールズ」（若年無業女性）就労支援事業

「ガールズ編 しごと準備講座」は第 9 期をセンター横浜で、第 10 期をセンター横浜北で実施し、合計 41 人の参加がありました。講座修了者が孤立せずに安心して話せる場を提供し、就労と自立に向けた歩みを支援するためのサポートグループ「ガールズ いちごの会」は不定期で年 3 回開催、のべ 30 人が参加しました。「ガールズ いちごの会」第 3 回は、講座「シリーズ 格差社会と女性」参加者有志の協力を得て、世代をこえた交流の場となりました。

センター横浜南では、若年女性の就労体験の場「めぐカフェ」の運営が丸 3 年を迎えています。2013 年度は、「ガールズ講座」修了者等の 15 人が「就労体験ステップ 1」（10 回。社会参加するための訓練）に、そのうち 8 人が「就労体験ステップ 2」（20 回。チームの一員として働くための訓練=カフェ等の実習）に参加しました。

「ライブラリ等就労体験事業」

さらに 2013 年度は、就労体験の場をセンター横浜にも広げました。助成金を得て、情報ライブラリでの書架整理や簡易な事務作業を体験する「ライブラリ等就労体験事業」（23 回）を実施し、5 人が参加しました。

これらの就労体験事業は、開始当初から、よこはま若者サポートステーション（以下、サポステ）と連携して行っています。就労体験と並行してサポステでの相談を行うことで、体験者の個別支援に役立てています。また、市内の就労体験受入れ事業所や関連支援機関による検討会へオブ

ザーバー参加しました。

さらに、センター横浜南では、支援の展望と地域連携の大切さを共有する機会として、2 月に「支援者研修『若い単身女性の自立支援～講座・就労体験と地域連携』+ガールズ講座 4 年間の調査報告」を NPO 法人全国女性会館協議会の助成を得て実施し、2 日間で全国から 43 人の参加者が集まりました。

◆女性の再就職・転職、継続就業支援事業

センター横浜北では、再就職・転職支援事業と、すでに就業している女性が働き続けるための継続就業支援事業を実施しました。

再就職・転職支援事業として、（株）アイデムと横浜市市民局との 3 者協働で、女性のための求人情報サイト「わたしのおしごと HAPPY ナビ」を運営し、のべ 30,581 人がサイトを閲覧しました。横浜市経済局とマザーズハローワーク横浜と協働して開催した合同就職面接会「子育て応援就職フェア」では、166 人が参加しました。また、働く人のための税・社会保険の基礎知識を伝える「女性のための再就職・転職応援サロン『安心・納得して働くために、応募前にココをチェック！』」を開催し、16 人が受講しました。

第 61 期を迎えた「女性のための再就職準備講座『ルトラヴァイエ』」は、市内でも特にM字型就業構造の谷間が深いといわれる北部地域の女性たちを中心に 18 人が参加しました。受講者は自己理解を深めながら、求職スキルを習得し、自分らしい働き方を見つけようと真剣に取り組んでいました。近年の傾向として、離職期間が短い受講者が増えており、今回も 8 割を占めました。

「横浜女性ネットワーク会議」

（株）損害保険ジャパンと横浜市市民局が連携して行う「地域ダイバーシティ in 横浜」は、横浜で働く女性に向けた継続就業支援を目的とした事業で、センター横浜北も参加しています。2013 年度は幹事として「第 5 回地域ダイバーシティ in 横浜」を開催しました。

組織運営を担う可能性を秘めたリーダー層の女性に向けて学びと交流を促進する「しなやかに！したたかに！女性リーダーのための仕事力 UP 塾」は新規事業です。横浜市の中心部にある横浜市情報文化センターで実施し、22 名の参加者がありました。

昨年に引き続き横浜市市民局と共催で行った「横浜女性ネットワーク会議」は、定員を超える 320 人が集いました。基調講演にはニュースキャスターの安藤優子さんを迎え、自分らしいキャリアを育てるヒントや女性の活躍を促進するための企業の戦略を学ぶとともに参加者同士の交流を深め、会場は熱気にあふれました。

＜利用者の声＞

- 11 日間のプログラムの中では、アサーティブの講座が印象的でした。自分の気持ちを大事にしていいと学びました。それから、みんなで一緒にスープをつくったことは、調理実習を思い出して楽しかったです。自分と同じような経験をした人と一緒に受講できたことが良かったです。（ガールズ編　しごと準備講座）
- 初めての体験でとてもぎこちなかったと思いますが、スタッフさんやお客様が気さくに接してくださり、とても楽しかったです。「働く汗は気持ちいい！」と感じることができました。（「めぐカフェ」就労体験）
- いち早くこの問題に取り組まれ、その後の調査の事を聞かせていただき、今後自分たちで進めていくにあたり参考になることばかりでした。見えてきた課題や地域連携の重要性も勉強になりました。受講者のおふたりの話はとても響きました。本当によく話してくださったと思います。（支援者研修「若い単身女性の自立支援～講座・就労体験と地域連携」+ガールズ講座 4 年間の調査報告）
- 漠然と考えられていたことが、商圏、売上等の数字を出して考えることにより具体的になった。名刺、ブログ等、先延ばしにしていたことを、期限付きで準備をスピード感を持ってできた。他の方の起業内容、進め方を知る事ができ、とても勉強になった。（第 7 期女性起業家たまご塾「事業プラン完成コース」）
- 思っていたものより労働法のしばりというものが柔らかく、会社と雇用される人との契約内容がとても重要なのだということが分かりました。今後の活動姿勢にも関わってくると思います。　（女性のための再就職・転職応援サロン「安心・納得して働くために、応募前にココをチェック！」）
- 迷いつつ参加しましたが、申し込んで本当に良かったと思います。講師の方たちも素晴らしくて、お仲間に会えてよかったです。履歴書の書き方や自己 PR など、積極的に情報収集することが大事だと思いました。（女性のための再就職準備講座「ルトラヴァイエ」）
- 華々しいキャリアを積む方々もきっかけがあり、そのきっかけを今日までの大きな結果に結びつけて今があるのだなということに親近感を持ちました。目の前のことに一つ一つ思い悩み選択しキャリアを積んでいく、自分の社会人経験、人生のキャリアに自信を持てましたし、励みになりました。（横浜女性ネットワーク会議）

（2）ワーク・ライフ・バランス支援事業

仕事と家庭生活等の調和をとることは、社会・経済の活性化につながります。しかし現実には、男性は仕事、女性は家庭生活を優先している割合が高いことがわかっています。男女がともに仕事と生活のバランスの向上をめざすために、仕事と子育ての両立支援、男性の育児や地域活動への参画促進、男性の生活自立支援、事業所向けの啓発・情報提供等をテーマとしたワーク・ライフ・バランス支援事業をセンター3 館で展開しました。

◆仕事と子育てグループ相談

センター横浜の「仕事と子育てグループ相談」は、育休後の働き方について、子ども同伴でファシリテーターを囲んで語り合う場です。育休中やこれから出産という参加者もおり、小さい子どもがいてもキャリア形成を視野に入れて働くことについて、情報交換や話し合いが行われました。「同じ悩みを抱えている方と知り合い、励みになった」「育休中はなかなか会えない、働き続けたいという女性と知り合えてよかった」などの感想がありました。

◆ワーク・ライフ・バランス応援講座、父親参加型ひろばの開催

センター横浜南では、保育コンシェルジュを招いて「仕事と子育て応援セミナー　保育園に預けて“働く”に踏み出す講座」を開催しました。正社員で育児休業中の人と求職活動中で保育園を利用したいという人 17 人が参加、後半のグループトークでは保育園生活に関する質問や“就活”と“保活”のすすめ方などについて参加者同士が熱心に語り合いました。

「仕事と子育て応援セミナー
保育園に預けて“働く”に踏み出す講座」

センター横浜北では、「転機を味方に！　ワーク・ライフ・バランス応援講座」と題して「女性のキャリアと結婚・出産」を 7 月に、「はじめての保育園 in 横浜」を 11 月にシリーズ実施しました。結婚、出産を経て働く・働き続けることのイメージを、少し先行く先輩の話を通じて提供する内容で、「励みになった」「具体的イメージがわいた」「モチベーションが上がった」という感想が参加者から寄せられました。特に「はじめての保育園 in 横浜」は定員 30 人が受付開始日に埋まるという盛況ぶりで、子育て世代が多い北部地域では、両立支援につながる保育園情報のニーズが高まっています。

「ファミリーデー『作って飛ばそう』」

また、父親の育児参加を促し、子育て中の親子が地域でつながりをつくるきっかけにもなっているのが父親参加型の“ひろば”事業です。「ファミリーデー」「お父さんと遊ぼう」「パパも遊ぼう土曜ひろば」「パパ&ママとあかちゃんのふれあい運動あそび」「パパといっしょのひろば」など、保育者が親子遊びをサポートする事業を 3 館で開催、水遊びやクリスマス会など季節感を取り入れた遊びを親子で楽しみました。

◆男性の地域活動・生活自立支援講座

センター横浜では「パパ工房」を 2 回開催、子育て世代の男性が、絵本作りと料理に挑戦しました。講座はアットホームな雰囲気のなかで行われ、「保育施設もあり、子どもに気をとられなかったので、聞きやすく楽しく参加できました」という声も寄せられました。センター横浜北では男性の料理教室「男が作る日常食入門」を実施しました。野菜の切り方、出し巻き玉子の焼き方など日常食作りの基本を実践的に学ぶ内容で、参加した男性たちは、料理の楽しさを体験、年代を越えた男性同士の交流も生まれました。

男性ボランティアが中心となってセンター横浜とセンター横浜南で開催している「おもちゃ病院」は 2013 年度も定期的に開催、安定したニーズがあって地域に定着しています。「物を大切にするようになった」「おもちゃの仕組に興味をもつようになった」と、修理に訪れた親子に好評です。

◆バリアフリー料理と子どもの生活自立支援講座

センター横浜では、NPO 法人全国女性会館協議会の助成金を得て、父親と子どもの生活自立をねらいとした「パパ工房スペシャル～パパ子料理教室＆ママのリラックスヨガ」を開催しました。父親と子どもたちがごはんをつくっているあいだ母親はヨガで日ごろの疲れをいやすというプログラムで、父親と子どもたちがつくった昼食を参加者全員で楽しみ、生活工房はなごやかな雰囲気に包まれました。

「パパ工房スペシャル
～パパ子料理教室＆ママのリラックスヨガ」

センター横浜では「バリアフリークッキング in フォーラム」、センター横浜北では「バリアフリークッキング in あざみ野」を障がいのある男性を対象にそれぞれ 2 回ずつ実施しました。簡単にできる料理を作ることを通して、栄養や料理の知識を深め、家事能力を高めることを目的としています。

＜利用者の声＞

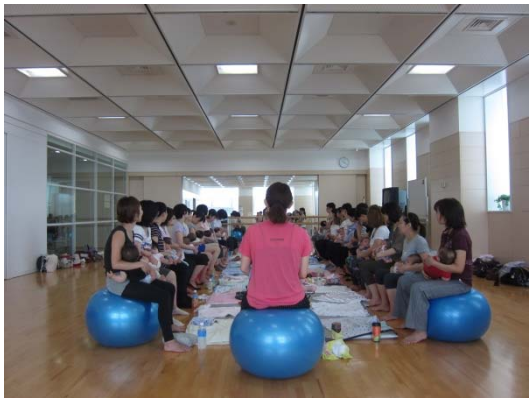
- 家では、工作などなかなかする機会がないので、子どももとても喜んで参加して、よかったです。真夏で公園でも遊べず、夫も土曜日仕事なのでとても助かります。（子どもの部屋　ファミリーデー）
- 今まで「？」と思っていた保育園での生活、入所のプロセスなどがわかって良かったです。就活に関する部分もつかめてきた気がします。これからも色々なこのような講座に参加してみたいです。(仕事と子育て応援セミナー　保育園に預けて“働く”に踏み出す講座)
- これで「オムライスなら任せて」と、家でも自信をもってできるようになりました。「おいしい！」と娘に言ってもらえて、すごく嬉しかったです。(パパ工房～子どもとの暮らしを楽しむ)
- 修理の難しそうなおもちゃに一生懸命に取り組んでくださり、その姿を子どもに見せることができとても有り難かったです。(おもちゃ病院)
- ふだん時間をとることがむずかしいので、パパと子どもが一緒に料理する時間がとれてよかったです。家族のイベント時に家でも実行していきたいです。また、母親のヨガの時間も日常からはなれ、ゆったりとした時間を過ごせました。(パパ工房スペシャル～パパ子料理教室&ママのリラックスヨガ)

（3）心とからだのセルフケア事業

月経、妊娠、出産、更年期と、生涯を通じて女性の心とからだはさまざまな課題に直面します。また、平均寿命と健康寿命は、男性に比べて女性は 3 年ほど長くなっており、生涯にわたる健康管理が重要です。センター横浜のフィットネスルーム、センター横浜南のトレーニング室、センター横浜北の健康スタジオでは、さまざまなライフステージで生じる女性特有の健康課題を改善し、心とからだの健康を増進するプログラムを実施しています。このほか、セミナーを通して、女性特有の疾病や課題に対する情報を提供しました。

◆健康課題別体操教室

センター3 館では、ライフステージによって変わる、女性特有の健康課題に対応した体操教室を行いました。産後の女性の心とからだをケアするプログラム「産後ママの骨盤ヨーガ」、「産後ママのボディケア」（センター横浜）、「産後の骨盤底筋エクササイズ」（センター横浜南）、「心とからだを整える産後のセルフケア」（センター横浜北）を実施、いずれも好評で、高い満足度を得ることができました。センター3 館で実施の「女性のがん手術後のリハビリ体操」は、10 月より住友生命健康財団の助成金を受けられたことにより参加費を無料としたところ、すべての館で参加者が増加しました。この他にも、女性に多い腹圧性尿失禁を改善する「骨盤底筋体操」、更年期の不調を緩和する「更年期にやさしいストレッチ」「更年期のリフレッシュ体操」などをセンター3 館で実施しました。



当日参加教室「心とからだを整える
産後のセルフケア」
（センター横浜北 健康スタジオ）

◆生涯にわたる健康づくり体操教室

センター3 館では、心とからだの健康の増進や回復を目的として、健康体操、呼吸法、整体法、太極拳、ヨガ、ピラティス、バレエ、ダンスなど多彩なプログラムを提供しました。

週 1 回ずつ定期的に 6 ヵ月、3 ヵ月（全 6 回～11 回）等の中・長期で取り組むことにより、効果的に健康づくりを推進していきます。

6 ヵ月コース「女性のためのシンプル・ヨガ」
（センター横浜南 トレーニング室）

◆健康セミナー等

センター横浜では住友生命健康財団の助成を受け、医師の土井卓子さんを講師に迎えて、女性の健康セミナー「乳がん、その後をわたしらしく」を無料で開催しました。乳がんの治療の現在、その後の生活を支える医療ネットワーク等に関する講義のほか、自身が乳がん体験者である「女性のがん手術後のリハビリ体操」講師の大木麻梨子さんによる体験談とリハビリ体操の紹介という内容で、キャンセルがほとんどなく、参加者の関心の高さが伺われました。

女性の健康セミナー
「乳がん、その後をわたしらしく」

＜利用者の声＞

- 皆さん治療を終えた方ばかりで話も合い、励まされます。内容も勉強になり家でも少しずつやっています。（当日参加教室「女性のがん手術後のリハビリ体操」）
- まさかこんなに楽しいとは思っていなかった。体を動かす、理屈を理解する、頭を使う、がバランスよく満たされた。（当日参加教室「心とからだを整える産後のセルフケア」）
- 今回初めてのピラティスを経験したが、とても気持ちよかったです。（3 ヵ月コース「癒しのピラティスストレッチ」）
- 激しい体操ではないのに身体を動かした感がかなりあり、講座が終わった後がすっきりする。家ではなかなかできないので参加してよかった。（3 ヵ月コース「からだすっきり骨盤エクササイズ」）
- ゆっくり丁寧に教えていただき、毎回リラックスして帰宅できます。（6 ヵ月コース「女性のためのシンプル・ヨガ」）
- 講師の説明がわかりやすく、初めてでもついてゆくことができた。予想以上に体調がよくなり気持ちも前向きになった。（6 ヵ月コース「からだにやさしいバレエ」）
- 乳がんについての見解が、昔と違っていることがよくわかり、参加して良かったと思いました。「がん」治療の進歩の速さにびっくりしました。（女性の健康セミナー「乳がん、その後をわたしらしく」

（4）女性への暴力防止と被害者支援事業

女性に対する暴力は重大な人権侵害であり、男女共同参画社会を実現していく上での大きな課題です。センター3館で10代からシニアを対象とした女性のための護身術ワークショップ、夫婦関係に関する法律講座を実施したほか、センター横浜では、女性への暴力被害者支援と予防を目的として、民間団体との協働により、昨年に引き続きデートDV防止啓発を目的とした学校への出前講座を実施し、その報告も兼ねたフォーラムをNPO法人と共催しました。また、大学の公開講座として、若い世代が企画し登壇するイベントを共催しました。DVを経験した母子のためのケア・プログラムのほか、新規に性暴力被害者支援を目的としたライブ＆トークも開催しました。

◆法律講座

女性が自らの生き方を自己決定する一助としての法律講座「夫婦関係・離婚をめぐる法律講座」をセンター3館で、テーマ別に年間5回開催しました。また、地理的にセンター3館へのアクセスがしづらいという旭区からの要請を受けて、区民女性向けに初めて出前形式での講座を開催しました。「基本編」が好評だったため、「DV編」を追加実施しました。

◆「女性のための護身術WEN-DO(ウェン・ドー)」10代からシニアまで

カナダで開発された女性のための護身術プログラムWEN-DOをセンター3館で実施しました。

小学生や中学生とその母親、姉妹での参加など10代～60代の幅広い年齢層の女性が参加しました。今、そこにある危険から身を守るための実践や、未然に暴力的状況を回避する方法がわかりやすく、具体的な説明で示され、参加者が身体面から自信を高められる講座になりました。

◆デートDV 防止啓発事業

昨年度に引き続き、「デートDV防止啓発出前講座」を市内の中学、高校で、計24校、30回実施しました。NPO法人エンパワメントかながわスタッフが講師となって、約4,700人の生徒、学生および教職員に対し、デートDVについて考えるきっかけを提供する機会となりました。参加者アンケートでは、デートDVの言葉や意味を初めて知ったという回答も約1/3にのぼり、啓発の効果が見られました。

「デートDV防止スプリングフォーラム2014」

さらに、デートDVについての認識を深めるとともに、より若者に届きやすい防止啓発を目指す団体のネットワーク作りを目的に、NPO法人エンパワメントかながわと共催で、「デートDV防止スプリングフォーラム2014」を実施しました。中学・高校の教員からは、保健室から見える生

徒たちの現状や、出前講座を実施しての効果について報告がなされました。また、岩手県で中学・高校生に防止啓発を行う大学生のグループ「岩手 I&Y」のメンバーをゲストに迎え、パネルディスカッションを行いました。

若者のリアルな感覚でデート DV を伝える事業「デート DV ピースプロジェクト」では、初の出前講座として、フェリス女学院大学ハラスメント防止委員会と共催で、「公開講座『いっしょに考えるデート DV』」を実施しました。現役大学生タレントたかまつななさんのミニトークに続き、後半では昨年のデート DV ピースプロジェクト・ワークショップ参加者も登壇し、会場の同世代の学生とやり取りしながら、パネルディスカッションを行いました。

「公開講座『いっしょに考えるデート DV』」

◆PANSAKU ラストライブ＆トーク ＋ レイプクライシス・ポスター展

センター横浜では、自らの性暴力被害体験テーマに、音楽でメッセージを発信する活動を続けてきた「PANSAKU」のボーカル、ぱんさんの弾き語りライブと、前警視庁広報課長の小笠原和美さんとのトークを行いました。合わせて、性暴力のサバイバーを支え、社会啓発活動を行うレイプクライシス・ネットワーク（RC ネット）が制作したポスター展をセンター横浜と横浜南で開催。ライブ当日には、代表の岡田実穂さんがポスター映像を上映しながら活動の紹介を行いました。イベントの最後には、性暴力被害者支援に関わる団体のリレートークもあり、アンケートでは「性暴力被害の多様性を感じた」「当事者・支援者からのメッセージが届いた」「資料が役立つもので助かった」「長い間苦しんでいたが、自分を責めなくていいと思えて力をもらった」などの声があり、市民、支援者、当事者に多くの情報を発信することができました。

「PANSAKU ラストライブ＆トーク」

◆DV 経験者のためのケア・プログラム

昨年度に引き続き、「DV を経験した母子のためのケア・プログラム『まいん』」を実施しました。DV が母親（女性）や子どもの心身に及ぼす影響は深刻です。このプログラムは、暴力のない関係性を体験し、自分は大切な存在であると感じることを目的に、母と子それぞれが安心できる仲間や大人に出会い、回復のきっかけとなる場を提供するもので、DV 家庭で育った子どもを対象とした数少ないプログラムの一つとなっています。

また、NPO 法人レジリエンスと協働で、DV、トラウマやモラルハラスメントなど、心の傷つきのケアについてワークをしながら考える講座を、毎月１回、実施しました。回ごとに「自分を守る境界線」「加害者とは」「自尊心」などのテーマを設定し、午前中にセミナー、午後には少人数のサポートグループを実施しています。サポートグループにはセミナー参加者の４割を超える参加があり、安心できる場で必要な情報を得て、自分と向き合ったり、気持ちを分かち合ったりできる場となりました。

＜利用者の声＞

- 暴力の具体例をみて、恥ずかしながら自分も暴力をふるったことがあることに気づきました（高１・男子）。（デート DV 防止啓発出前講座）
- 相談できる場所があることを初めて知った（高３・女子）。（デート DV 防止啓発出前講座）
- 現場でのデータを知ることができ、早期の予防プログラムの必要性を感じた。（デート DV 防止スプリングフォーラム 2014）
- 若い人たちが問題に関心を持って取り組んでおり、将来に期待が持てた（デート DV 防止スプリングフォーラム 2014）
- 心配していたことなどが解消できました。質疑応答の時間を長くとっていただいたのが特に良かったです。（夫婦関係・離婚をめぐる法律講座）
- 過去の自分に向き合うことはつらいけれど、少しずつ突破口が見えてきて、心が徐々に安定してくる感じがします。毎回、力をもらって帰ることができてありがたいです。（ＤＶ・トラウマからの回復　女性のためのこころのケア講座）
- 日常生活の中、自分と向き合う事ができずにいたのですが、今日のセミナー参加により、ゆっくり自分と向き合い前向きに考える事ができました。（DV を経験した母子のためのプログラム「まいん」）
- 女性だけでとても良い雰囲気でした。本格的に WEN-DO を習いたいと思いました。（女性のための護身術 WEN-DO）
- ワークショップ系の授業は、何度か経験していますが、同世代の方の授業は、初めてだったので、心に響きました。特に DV というテーマで、男性が関わってくれているのが嬉しかったです。（デート DV ピースプロジェクト　フェリス女学院大学公開講座「いっしょに考えるデート DV」）

（5）女性の自己表現支援事業

女性が、職場や家庭、地域などで、自分の気持ちや意見を適切に表現することや、表現を通じて自己解放することを目的に、女性の自己表現支援事業を実施しています。控えめで謙虚であることを求められがちな女性が、自分と相手の双方を尊重しながら、その場にふさわしい方法で自分の気持ちや意見を表現するコミュニケーションのスキルを学ぶワークショップをセンター3 館で実施しました。このほか、アートや音楽を通じて心身を解放するワークショップ、女性の映像作品を鑑賞する映画上映会、市民グループや女性起業家による手仕事作品の展示・販売イベントなど、女性の表現活動にまつわる多彩な事業を実施しました。

◆アサーティブネス関連講座

人間関係が複雑化する現代、相手のことを尊重しながら対話をしていくのは簡単なことではありません。自分の要求や感情を過不足なく伝えていくコミュニケーションスキルを学ぶ、アサーティブネス関連講座を、対象別にセンター3 館で実施しました。ロールプレイを通して、自分のコミュニケーションパターンに気づき、自分も相手も大切にするコミュニケーション法とは何かを、のべ 64 人の参加者が体験しました。

参加者からは、「自分の素直な気持ちを話すことを知り、目から鱗が落ちた」「ロールプレイを通してたくさんの気づきがあった」などの声が毎回、聞かれます。相手の依頼を断る、相手に頼みごとをするといった場面を想定したロールプレイで練習でき、参加者同士の交流も生まれることが、参加者の気づきにつながっています。

◆アートワークショップ

センター横浜では、ゆっくりした呼吸や声を出すトレーニングを通して自己を解放するワークショップ「女性のための心のアート『私の声力（こえぢから）』」を 2 コース実施しました。2 コース目では、女性詩人金子みすゞの詩や童謡を題材として実施し、たいへん好評でした。声に出して朗読することにより、潜在している力を引き出すワークショップは、参加した女性たちのエンパワメントにつながりました。

「私の声力～
金子みすゞの詩と童謡から入る朗読」

また、振付師とアシスタントチームを迎えた「香瑠鼓さんとつくるダンス～わたしのなかの光をさがして」は、5 回のワークショップで舞台をつくり上げるプロセスと発表を経験する場となり、20 代から 70 代までの女性 25 人が参加しました。

「香瑠鼓さんとつくるダンス～わたしのなかの光をさがして」(舞台発表)

センター横浜北では、毎月「手編みでつながるニットカフェ in あざみ野」を実施し、幅広い年代から、のべ 295 人の参加がありました。思い思いに編み物をしながら、参加者同士が交流したり、ゆったりとした時間を楽しむ場となっています。一時保育の利用ができるため、リフレッシュできてうれしいと、子育て中の女性にも好評でした。

「手編みでつながるニットカフェ in あざみ野」

◆手仕事フォーラム＆女性起業家マルシェ

センター横浜では、生活工房を利用しているグループが日ごろの活動を発表する場として「手仕事フォーラム」を実施しました。2013 年度は「女性起業家マルシェ」と同時開催し、あわせて 24 グループが作品の発表や販売を行いました。手仕事や手作りへの関心は高く、約 600 人が来場しました。出展したグループの満足度も高く、「分野の違う大勢の方に見て頂けてよかった」「たくさんの人々と出会い、手紡ぎの良さをアピールできた」などの感想が寄せられました。

「手仕事フォーラム&女性起業家マルシェ」

◆ミニギャラリー

各センターで活動を行っているグループや個人に作品展示の場を提供する 3 館の「ミニギャラ

リー」では、60 グループが多彩な展示を実施しました。スペースや出展料が手頃である点や、来場者との交流を楽しめる点が好評で、身近で手軽な発表の場として利用されました。

センター横浜では、市民利用されていない期間に、主催のコンサートライブに連動した写真展や資料展示の実施も行いました。センター横浜北では趣味を楽しむ市民グループに多く利用されました。

フォーラム南太田「ミニギャラリー」

◆映画上映会

女性監督の作品や女性の生き方を描いた作品の上映会を開催し、女性の多彩な表現活動に親しむ機会を提供しています。センター横浜では、震災復興に立ち上がるフラガールたちに密着したドキュメンタリー「がんばっぺ　フラガール」や、「すーちゃん　まいちゃん　さわ子さん」を上映しました。フォーラムまつりでは、「人生、いろどり」を上映し、多くの共感を呼びました。そのほか、上映機会の少ない女性監督のドキュメンタリー作品を紹介する「女性映像フェア in 横浜」を映像女性学の会と共催し、2 日間で 4 作品の上映と監督によるトークを行いました。映像が写し出す不妊、からだや性、老い、住まいなど女性にとって切実なテーマに共感する声が多く寄せられました。

センター横浜南では「めがね」「毎日がアルツハイマー」「落語娘」を上映しました。フォーラム南太田まつりでは「さなぎ～学校に行きたくない～」を上映し、監督の三浦淳子さんを招いてトークイベントも行いました。ゆっくり鑑賞できるよう工夫をこらした環境作りも好評で、映画鑑賞券には「めぐカフェ」のドリンク券をつけ、映画の余韻も楽しんでもらえるよう工夫をしています。

◆ピアノ・レッスンの夜

稼働率の低い平日夜間のホール利用を活性化するため、1 時間単位でグランドピアノを弾ける機会を提供しました。コンサート前の練習などに多く利用され、広いホールで弾けて気持ちがよかったなどととても好評で、次年度も継続を希望する声が多く寄せられました。

＜利用者の声＞

- いかに自分が気持ちを言葉にしていないかを痛感しました。業務上言葉を紡ぐことに長けていると自覚していただけに思うところが多く、濃い時間でした。(働く女性のためのアサーティブ体験講座～自分も相手も大切にしたコミュニケーション)
- コミュニケーションが今回の講座で変わると思った。できるところから実践したい。(アサーティブネス体験講座～自分も相手も大切にしたコミュニケーション)
- 自分の気持ちを押さえこまなくても人と良好なコミュニケーションがとれるということに気づき、今後少しずつでも実践したいと思います。(こころのちから講座～アサーティブネス体験)
- 声にはいろんな可能性、底力、魅力などなど無限大だなと感じました。自分が思ってもみなかった音を出したり、体を動かしたり、人の声からパワーをもらったり楽しいことがいっぱいありました。また参加したいです。(女性のための心のアート「私の声力」)
- 前回の声力に参加して声を出すことが楽しかったので、今回も参加させていただきました。自分の子どもにも絵本とかを読み聞かせることが増えてきたので、もっと声で表現できればいいなと思っています。(私の声力～金子みすゞの詩を題材に)
- 初めて参加しました。とても居心地よかったです。家で、一人で編むより、うちこんで手を動かせて楽しかったです。(手編みでつながるニットカフェ in あざみ野)
- 女性の強さを感じることができる作品でした。これから私も自分ができることを始めていきたいです。(女性映像フェア in 横浜)

（6）くらしの安心・安全事業

地域の中でだれもが安心できるくらしを実現するための事業を、「くらしの安心・安全事業」として実施しています。地域防災というテーマは、自治会・町内会、民生委員など共助の要となる地域活動の担い手に、日常の暮らしの中で男女共同参画を推進していく大切さを伝える機会となっています。男女共同参画の視点をいかした防災研修会や、女性が防災の主体として積極的に参画していくためのワークショップ等に積極的に取り組みました。また、セーフティネットを支えるための“よりそいホットライン”公開講座等を実施しました。

◆男女共同参画の視点をいかした地域防災

センター横浜南とセンター横浜北では、年度初めに地元の区役所の協力を得て、各センターの防災関連事業の紹介を行いました。

センター横浜南では、自治会との連携事業として、とくに高齢化の進む南区の状況に配慮し、自治会の防災訓練や、2012 年度の主催講座「シニア女性の出番です！防災塾」受講者が企画した防災研修会に運営協力をしました。講師鈴木光さんによる地図を使った図上訓練が好評でした。

「シニア女性と防災」地域関連事業

センター横浜北では、広報啓発事業として、職員を区役所・消防署、自治会・町内会や PTA、家庭防災員等の防災研修会に派遣し、地域の安心づくりにおける日ごろからの男女共同参画の取組みの重要性を伝えました。また、2009 年から継続してきた地域出前学習会での参加者ニーズをふまえて、地域活動における女性リーダーの育成をめざす新規講座を企画し、実施しました。そのほかにも、昨年度に引き続き、子育て拠点と連携した「子育て家庭の防災サロン」を実施したり、NPO との協働で「子連れアクティブ防災講座 in 横浜」を開催するなど、子育て世代の防災意識を高めながら、地縁づくりに継続的に取り組む重要性を伝えました。また、横浜市消防局からの要請を受け、「2013 消防フェア」に初出展しました。親子向け防災ゲームや職員が考案した「親子の非常持ち出し品」「働く女性の帰宅困難支援グッズ」展示に関心が集まりました。

地域防災拠点訓練での出前学習会

◆身近な地域と暮らしの安心・安全づくり

センター横浜南では、どんな人のどんな悩みにも寄りそっていっしょに解決する方法を探す、24 時間相談ダイヤル“よりそいホットライン”の公開講座「困り事から始まる地域づくり～釧路

での実践から学ぶ」を(一社)社会的包括サポートセンターと連携し、2014 年 3 月に実施しました。講師には北海道・釧路市で地域生活支援 NPO を運営し、子ども家庭や障害児・者の支援、就労困難な若者支援などを行っている日置真世さんを迎えました。多文化共生社会をつくるための支援人材の発掘をめざし、地域の支援者 25 人が集まり、今後の地域での支えあいを考える場となりました。

「困り事から始まる地域づくり
～釧路での実践から学ぶ」

センター横浜北では、2014 年 3 月に横浜で開催された IPCC 総会を記念し、横浜市温暖化対策統括本部、NPO との協働で「ママはお天気博士～異常気象から子どもを守るために」を開催しました。NHK の気象キャスターとして活躍中の平井信行さんを講師に、子育て女性だけではなく、環境問題に関心を寄せる幅広い層の参加者を得ました。

「ママはお天気博士
～異常気象から子どもをまもるために」

６　協 働 連 携 事 業

（1）NPO・市民グループ等との協働事業

市民グループや NPO の専門性と男女共同参画センター双方の強みを活かし、協働で事業を展開することを通じて、地域課題の解決を目指す幅広い分野の男女共同参画の取組みを行っています。センター3 館で、講座・ワークショップ、地域出前講座、啓発教材・調査研究の 3 つの枠組みで企画を公募し、協働で実施する「市民・NPO がつくる男女共同参画事業」を実施しました。

◆市民企画講座・ワークショップ事業

地域での男女共同参画推進や課題解決をめざす、さまざまな企画の応募があり、選考に基づき、センター3 館で 20 企画（センター横浜 7 企画、センター横浜南 4 企画、センター横浜北 9 企画）を実施しました。

薬膳や外国人女性による料理を通じて健康と自己肯定感を高める講座、孤立しがちな単身の高齢者が地域ネットワークに参加するきっかけづくりの講座、水彩画や演劇、体操の手法を使って心身を開放するワークショップ、シニア男性による子ども向けの理科実験講座、自分に心地よい人間関係を考えるコミュニケーション講座、就業を目指す子育て中の女性の自己実現をサポートする講座など、多岐にわたる分野の市民企画事業を市民に届けることができました。

「料理で国際交流」

「からだときもちのリフトアップ・ストレッチ」

◆地域出前企画助成事業

3 館で 3 企画（センター横浜、センター横浜南、センター横浜北ともに各 1 企画）を選考し、実施しました。

DV や傷つき体験のある女性がメイクアップを通じて自己肯定感を高める講座を母子生活支援施設等へ、シニア女性が主役となり 10 代との異世代交流を通じて地域防災を考える講座を中学や区の図書館へ、LGBT の学生が多様性を踏まえた人間関係について対話する講座を高校や大学へ、それぞれ出前講座として地域に届けました。

◆啓発教材・調査研究企画助成事業

2013 年度は、選考の結果、該当なしとなりました。

＜利用者の声＞

- 人に決めつけられずに、自分にとって心地良いものをじっくり見たり、ワークしながら知ることが出来て、安心して参加できました。（わたしに微笑むためのメイクレッスン）
- 今回出席できてとてもよかったです。今回学んだことを実生活に生かしていきたいです。自分と違った考え方の人たちの良さを認めていけるような気がします。（ココロが楽になるコミュニケーション講座）
- 韓国の文化をもっと知りたくて参加しました。美味しかったです。（料理で国際交流）
- 初めて来ました。品物も人も大勢なので驚きました。リメイクを勉強していますので、来てよかったです。（夏のリサイクルきものフェア）
- 妊婦です。なぜダウン症だけが新出生時診断で取り上げられるのか不思議でなりませんでした。生きる価値とは何か、考えさせられます。（連続講座 障がいのある子とともに　Part7～かたむきのない社会をめざして）
- 福島のことを忘れずにいることは、自分の問題でもあるとよくわかりました。（We フォーラム 2013 in よこはま）

（2）横浜市民ギャラリーあざみ野との協働事業

センター横浜北は、横浜市民ギャラリーあざみ野（以下、市民ギャラリー）との複合施設として「アートフォーラムあざみ野」を管理運営しています。2 つの施設のそれぞれの理念やネットワークを活かした協働企画に取り組み、「あざみ野サロン」や「ロビーコンサート」など市民が気軽に楽しめるイベントを実施するとともに、男女共同参画と芸術文化活動を融合させた事業を実施しました。日々の施設運営においても協力して行っています。

◆あざみ野サロン

アートフォーラムあざみ野を地域の幅広い層の市民に周知し、文化活動を身近に楽しんでもらうことを目的として、レクチャールームを会場に、「あざみ野サロン」を 4 回実施しました。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団による弦楽四重奏とソムリエによるワインの話、国際的に活躍するサウンドアーティストとダンサーによるコラボレーションパフォーマンス、文筆家清川妙さんの講演会「九十二歳、ていねいに楽しんで～清川妙の旅・古典・ひとり暮らし」、トークサロン「髙野悦子さんを偲んで～映画を愛した仲間たち」＆上映会「父と暮せば」とバラエティゆたかなラインナップになりました。

講演会「九十二歳、ていねいに楽しんで
～清川妙の旅・古典・ひとり暮らし」

とくに、アートフォーラムフェスティバルのメイン事業として実施した清川妙講演会は、ユーモアをまじえた内容で、何事にも前向きに生きていくパワーを参加者とともに分かちあうことができました。また、昨年亡くなった髙野悦子さんの足跡をたどるトークサロン＆上映会では、髙野悦子さんの姪にあたる岩波ホール支配人岩波律子さんをお招きしました。講演、映画ともに感銘を受けたという声を多数いただきました。

◆ロビーコンサート

毎月第 2・4 日曜日のお昼に、アートフォーラムあざみ野のエントランスロビーで、無料の「Welcome!　アートフォーラムあざみ野ロビーコンサート」を開催しています。吹き抜けの空間に楽器の音や歌声が広がり、施設利用者だけでなく、近隣に住む人にも好評のイベントとなっています。気軽にコンサートを聴いた後は、市民ギャラリーを鑑賞したり、交流ラウンジで読書をするなど、ゆったりとした時間と空間を楽しむ機会として親しまれています。

「Welcome!　アートフォーラムあざみ野
ロビーコンサート」

◆大学生がつくるミニギャラリー「恋愛からみるデート DV～お互いのこと知ってますか？」

夏休み期間に大学生のインターンを迎え、「アート×男女共同参画インターンシッププログラム」を協働のオリジナル事業として実施しています。「大学生がつくるミニギャラリー　本の展示」として、情報ライブラリで所蔵する図書資料やポスターを素材に、大学生の感性をいかして、自分たちが抱いた関心や想いを「展示」として発信する 1 週間のプログラムです。

「ミニギャラリー」企画に
取り組んだ大学生たち

今年度はデート DV をテーマとして、5 人の大学生が、相談センターの職員や市民ギャラリーの学芸員から専門性の高いレクチャーを受け、展示企画づくりに挑みました。「恋愛からみるデート DV～お互いのこと知ってますか？」と題した展示を作り上げ、秋には市内大学にて出張展示の機会も得ました。

◆心をつなぐパープルリボンウィーク

女性に対する暴力をなくす運動（毎年 11 月 12 日～25 日）の時期に合わせ、パープルリボンウィークとして、パープルリボンをモチーフにしたアートワークショップと啓発資料展示を行いました。アートワークショップでは、講師がデザインしたパープルリボンの形のミニマフラーを参加者が 2 本ずつ編み、1 本を東北の被災地に届けました。ミニマフラーの材料は、地域の方々からの寄付を募って購入し、手仕事のぬくもりがつなぐ人の絆や支援の継続の大切さを分かち合いました。

編みあがったパープルリボンマフラー

＜利用者の声＞

- とても 92 歳とは思えない素晴らしい講演でした。涙と笑いがあり、やさしさあふれる先生の気概がうかがえて、元気をいただきました（あざみ野サロン vol.36 講演会「九十二歳、ていねいに楽しんで～清川妙の旅・古典・ひとり暮らし」）
- 講演から髙野悦子さんの映画への思い、精神を改めてかみしめ、良質の映画、ミニシアターは髙野さんの思いを引き継ぐ子どものようだと思いました。（あざみ野サロン vol.38 トークサロン「髙野悦子さんを偲んで～映画を愛した仲間たち」&上映会「父と暮せば」）
- デート DV という言葉は知っていたものの、具体的にどこまでをデート DV ということか知りませんでした。インターンシップを通して、より多くの人に知っていただけたらと強く思いました。（アート×男女共同参画インターンシッププログラム）

（3）秋のフォーラムまつり

毎年秋の恒例イベント「フォーラムまつり」は、市内を中心に活動する NPO や市民グループが多数参加し、全館で活気あふれるさまざまなプログラムを展開する、各館最大のイベントです。市民グループにとっては日ごろの活動を多くの方に紹介する機会となっているほか、地域の皆さんにセンターを知っていただき、親しんでいただく機会ともなっています。2013 年度は 3 館合計で 129 グループが参加し、12,163 人の来場者を迎え、盛況でした。

◆フォーラムまつり

センター横浜では、開館 25 周年を迎え、「フォーラムまつり 2013～共感、積み重ね、明日へ～」を実施しました。58 グループが参加し、ワークショップ、ダンスや楽器演奏、合唱、食品や物品の販売などで、館内も前庭もにぎやかな雰囲気に包まれました。晴天に恵まれて 6,800 人の来場があり、盛り上がりました。

「フォーラムまつり 2013」

主催事業としては、「開館 25 周年記念ソング kaho*フォーラムの歌とプロモーションビデオ発表会」、階段ギャラリーでは、兵庫県立男女共同参画センターが制作した東北の仮設住宅で小物を作る女性とそれを支援する全国の女性たちの活動紹介パネルと、横浜での女性防災の取組みを「兵庫と東北つながっ展　in　よこはま」として紹介しました。また、「被災地支援女川カレー」の販売と活動の紹介を行ったほか、ホールでは映画「人生、いろどり」を上映しました。女性起業家 HAPPY テントには「女性起業家たまご塾」修了者が出店し、前庭では、ガールズ講座修了生によるチャリティ T シャツや手作りアクセサリーの販売も行われました。

◆フォーラム南太田まつり

センター横浜南では、「フォーラム南太田まつり 2013」を 29 グループの参加により実施し、悪天候にもかかわらず、2,380 人の来場がありました。交流ラウンジでの手作り小物等の販売コーナー、お茶席、友禅染や切り絵、生け花、ビーズ作品等の展示、手打ちそば等の軽食コーナー、地域の小学生による和太鼓の演奏、吹奏楽やオーケストラのミニコンサート、男声合唱、大正琴の演奏、ギター弾き語りのパフォーマンスなど多彩な持込み企画が好評でした。

「フォーラム南太田まつり 2013」

主催事業としては、三浦淳子監督を迎えて作品「さなぎ～学校に行きたくない～」上映会を

実施したほか、「子どもの部屋」では「ファミリーデー」を開催、親子連れでにぎわいました。

◆アートフォーラムフェスティバル

センター横浜北では、開館 8 周年を迎え、「アートフォーラムフェスティバル 2013～はっぴぃすまいる」を実施しました。同日にまつりを実施した近隣の山内地区センターとの広報連携や、山内図書館への広報協力依頼を行ったところ、幅広い年代の参加があり、来場者は 2,983 人でした。

「アートフォーラムフェスティバル 2013」

「アートフォーラムマーケット」には手作り品の販売や体験など、バラエティに富んだ 34 グループが出店。「あざみ野食堂」は 3 グループの協力を得ての実施で、500 人あまりが立ち寄りました。男女共同参画ミニワークショップは 4 グループによる 3 企画が実施されました。また「ふるさと岩手の収穫祭＠あざみ野」と題して岩手県山田町の物産展と写真展示が行われ、被災地に想いを寄せる場となりました。レクチャールームでは、講演会「九十二歳、ていねいに楽しんで～清川妙の旅・古典・ひとり暮らし」を実施し、170 人の参加がありました。その他、「ちびっ子消防士になろう～ワクワク体験コーナー」「ロビーコンサートスペシャル版」など盛りだくさんの催し物で、にぎわい感あふれるフェスティバルとなりました。

＜利用者の声＞

- スペースも広く、きれいな場所、スタッフの方の印象もよく、とても気持ちよく参加できました。（フォーラムまつり）
- 他のグループの方々と和気あいあいに交流でき、地域の方々に喜んでいただけ、とても有意義でした。（フォーラムまつり）
- 様々なグループが施設を利用されているのだと改めて知り、グループ同士の交流が楽しかったです。（フォーラム南太田まつり）
- 雨が降ってとても寒く人出を案じながら開店しましたが、お客様がたくさんいらしてフェアトレードの宣伝活動もでき有意義でした。（フォーラム南太田まつり）
- 知り合いの方々に声をかけていただいたり、初めての方々とも知り合いになれたり、楽しいコミュニケーションがとれました。（アートフォーラムフェスティバル）
- お子さんが体験で作った物を、とても喜んで持ち帰ってくれて、とても嬉しかったです。（アートフォーラムフェスティバル）

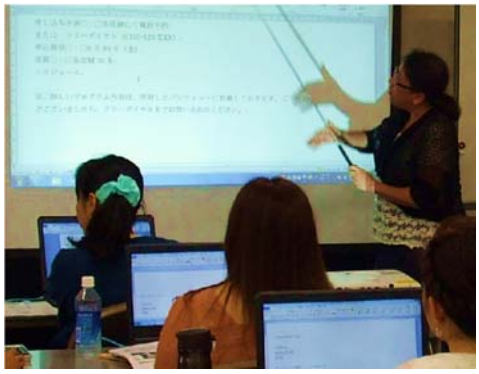
（4）その他の協働事業

NPO ・市民グループ、企業、学校、医療機関、行政機関と男女共同参画センターが互いの強みを活かして協働を行うことは、男女共同参画社会の実現に欠かせません。センター3 館では、専門性を有する NPO 等と協働で「女性のためのパソコン講座」「一時保育事業」を実施したほか、市民運営協議会を開催して、センターの運営について、利用者を代表する委員からさまざまな意見を伺いました。

◆女性のためのパソコン講座

女性が就労や社会参加をするうえで必要なパソコンスキルの習得を支援するため、センター3 館で「女性のためのパソコン講座」を年間を通して開催しました。だれもが安心して受講できるように環境に配慮し、講師は親切でていねいな指導を心がけています。2013 年度は、就業に役立つスキル習得を望む声に応えるため、「再就職のためのパソコン講座」のプログラムをリニューアルしました。

年間で 3 館合計 1,637 人が受講しましたが、そのなかには、参加費等免除制度により、経済的に困難な状況にある女性も少なからず含まれています。



「女性のためのパソコン講座」

◆一時保育

センター3 館では、主催事業参加者と施設利用者の 1 歳半から未就学の子どもの一時保育を実施しています。また、一部の事業については、2 ヵ月～1 歳 5 ヵ月の乳児も受け入れました。

センター横浜では保育室を利用して、予約なしに親子で参加できる「木曜ひろば」を開催しました。保育者の声かけで参加者同士が交流でき、安心して親子でくつろげる場所として好評でした。センター横浜北に常設されている「親子のひろば」は子育て世代のゆるやかな仲間づくりに活用されています。センター3 館は、子どもも保護者もそれぞれがセンターで充実した時間を過ごし、保育室が「安心できる楽しい居場所」の一つとなるように努めています。

「親子のひろば」

◆市民運営協議会

センター横浜、センター横浜南では第 2 期、センター横浜北では第 3 期となった市民運営協議会は、3 館とも 2 年任期の初年度で、各館で 3 回ずつ開催しました。市民運営協議会は市民活動

にくわしい委嘱委員、実際に地域で活動している公募委員で構成され、毎回、センターの事業・施設管理面で活発な意見交換が行われました。市民運営協議会の提案に対しては、できる限りすみやかに対応しました。

◆センター横浜の協働事業

センター横浜では、横浜市環境創造局受託事業「みんなで育てる小さなガーデン～みどりでつながる、元気をもらう～」を開催しました。フォーラムの 2 階、3 階のテラスにある植栽用のサークル 6 ヵ所を市民に開放して、ハーブや花の苗、野菜の種まきをし、4 回のワークショップを行いました。参加者でチームを作り、植物を育て、収穫物を試食することで、自然や人とのつながりを感じ、自然界の生命力の強さを感じると同時に、訪れる人、地域の人々が植物を介して楽しみながら交流しました。

「みんなで育てる小さなガーデン」

「アディクション・セミナー in YOKOHAMA～やめられる やりなおせる」はアディクション・セミナー実行委員会と共催で行う全館を使ってのイベントです。この催しは自助グループ支援の一環として実施しているもので、今年 25 回目を迎えました。36 団体が参加し、ギャンブルやアルコールなどさまざまな依存を抱えた当事者と家族の問題をテーマに、センター横浜全館を使って、21 のミーティングが行われ、当事者同士や問題に関心をもった人同士の交流の場ともなりました。

また、孤立しがちな乳幼児親子の子育て交流支援として「子育てしゃべりバほっとサロン」を、子育て支援グループゆめこびとと協働で実施しました。子育てについて体験的知識をもつ、ゆめこびとメンバーが進行役をつとめ、参加者と対等な立場で子育てについての情報提供や悩みを語り合います。地元の子育て中の母親が集い、悩みを共有したりストレスを解消したりできる場として機能しています。

「子育てしゃべりバほっとサロン」

2013 年に戸塚駅前に移転した戸塚区総合庁舎で、地域の市民グループが多数ブース出展した「とつかお結び広場」に館として参加し、地域住民と交流し、周知をはかる取組みも行いました。

◆センター横浜南の協働事業

協働 2 年目を迎えた南図書館での「女性のためのシゴト探し相談」を年に 3 回開催しました。図書館を相談の場とすることで、センターとは異なる層の利用者が相談に訪れ、パートの転職問題、シングル女性の仕事と介護の両立問題、子育て期の再就職などの相談にあたりました。相談を受けながら、必要に応じて男女共同参画センター関連事業の案内を行い、センター利用につなげました。

「フォーラム南太田マルシェ」

「フォーラム南太田マルシェ」は、これまで毎月定期開催してきた「南太田地モノやさい市＆手づくり市」をタイトル変更し、さらなる賑わいを演出しました。毎月楽しみにしている利用者もいて、地域に定着しています。

◆センター横浜北の協働事業

センター横浜北では、女性のネットワークづくりや就労支援を自分たちの手で行いたいという市民によって、実行委員会形式で企画された 2 つのイベントを、横浜市経済局の後援を受け実施しました。一つ目は、「横浜かあさん街活フォーラム～この街で世代を超えてつながろう、はじめよう」（主催：横浜かあさん街活プロジェクト）で、横浜市内で地域活動や仕事を始めたい女性の第一歩を後押しし、「街活実践者」と「何かしたい人」をつなげてネットワーク強化を図る機会として、地域ボランティアをはじめ本格的な仕事にもつながる街活事例を紹介しました。もう一つは、「笑顔で働きたいママのフェスタ in 神奈川」（主催：笑顔で働きたいママのフェスタ in 神奈川実行委員会）です。子育て真っ最中だけれど働きたい！と思っている女性たちに、等身大の女性の働き方を紹介し、自分らしく社会とつながる元気と勇気を提供する「ママの働き方見本市」として開催され、当日は 2,100 人の女性が館内をうめつくす盛り上がりとなりました。

「笑顔で働きたいママのフェスタ in 神奈川」

横浜市立大学地域貢献センターとの地域連携講座では、こどもの気管支喘息、夫婦で治す不妊をテーマに 2 回開催し、合計 71 人が参加しました。「夫婦で治す不妊症」では、パートナーと参加する人も多く、医療機関には行きづらかったという層に、情報を届ける役割を果たしました。

このほか、国連ウィメン日本協会よこはまとの協働で「国際女性デー2014～つながる輪　ひろがる和～飢餓から未来を救え！アジア農村女性たちのチャレンジ」などを実施しました。

◆事業本部事業企画課の協働事業

事業本部事業企画では、横浜市栄区役所と協働して、地域の安心・安全と女性の活躍推進のための取組みを進めました。トークイベント「地域に活かす女性の力」では、講師に『女性の品格』の著者である坂東眞理子さんと、栄区在住で、日本初の重度心身障害者通所施設の設立に力を尽くした日浦美智江さんを迎え、女性の力で変えていくこれからの地域づくりを考えました。会場には 300 人を超える多くの市民が集まりました。

2 月に実施予定だった JR 本郷台駅前での女性応援イベント「さかえ girls day」は、悪天候のため中止となりましたが、センター横浜のミニギャラリーで大藪順子さんの写真展「STAND：性暴力サバイバーたちの素顔」を開催し、来館者へ女性に対する暴力防止を呼びかけました。

防災学習会

東日本大震災から 3 年が経過する本年は、栄区の 3 つの地域防災拠点を対象として、防災学習会を実施しました。性別、年齢、障がいの有無などを問わず、すべての人が安心して過ごせる避難所をテーマに、実際に避難所となる小学校の図面を見ながら、ワークショップを行いました。学習会終了後は、女性の視点を踏まえた避難所運営についてのパンフレットを作成しました。3 月には被災地である仙台市、石巻市より講師を迎え、「栄区防災フォーラム」を開催し、参加者は被災地の生の声に耳を傾けました。

＜利用者の声＞

- 先生の教え方がわかりやすく集中して学ぶことができました。授業についていけない時には、すぐにサブの先生が教えに来てくれたので助かりました。求職中ですが、就職の前に受講しておいて良かったです。（女性のためのパソコン講座）
- 何より子どもがとても喜んでいることと、私も安心して預けられること、本当にありがたいです。（一時保育）
- 土とオーガニックガーデンについて、一番知りたいと思っていたことが知れて、とても良かったと思います。小さなガーデンが始まってから、来館の機会が増え、本などを貸りたり、利用するようになりました。この企画を続けてほしいです。（みんなで育てる小さなガーデン～みどりでつながる、元気をもらう）
- 片山さんの講演にとても刺激を受けました。自分の立場からできることを少しでも広げできることをやっていきたいと思いました。（国際女性デー2014～つながる輪ひろがる和～飢餓から未来を救え！アジア農村女性たちのチャレンジ）
- 坂東さんも日浦さんも、とても素敵で、志のある女性でした。心温まり、涙のあふれる催しでした。毎日を大切に生きたいと思います。（トークイベント「地域に活かす女性の力」）

7　男女共同参画推進施設管理運営事業

センター3 館は、男女共同参画推進のための市民利用施設として、施設自体がもつ複合的な機能を活用して、男女共同参画推進に関する事業を実施するとともに、市民の主体的な活動を支援する場を提供しています。市民が安心・安全に利用できるように、指定管理者の業務の基準に定められる施設管理項目を順守した運営を行います。

Ⅱ　施設利用状況・施設管理業務実施状況

センター3 館では、公益目的事業に関する利用以外に、有料施設を貸与する事業や利用者の利便性に配慮した飲料自動販売機の設置も行っています。これらによって得た収益は、公益目的事業である男女共同参画推進事業の財源としています。来館者数は３館合計で昨年度を上回りました。有料施設稼働率につきましてもほぼ昨年度と同じとなりました。節電と省エネに関しては、センター横浜での横浜市 ESCO 事業の導入効果により消費電力を削減したほか、センター横浜南、センター横浜北も昨年度に比べて電力を削減しました。経年劣化による老朽化や施設・設備の不具合に対応して小破修繕を行い、利用者の安心・安全を最優先した施設の管理に取り組みました。また、センター3 館とも帰宅困難者一時滞在施設として受入体制を整備しました。

◆男女共同参画センター横浜

・総来館者数は 327,653 人、有料施設の平均稼働率は 66.4%。目標（333,000 人、72.0%）達成には至りませんでしたが、総来館者数については前年度（317,434 人）を上回ることができました。有料施設利用者アンケートでは、「大変良かった」「良かった」との回答は 90.8%で、高い評価を得ました。

・横浜市 ESCO 事業による空調機器等の改修工事を通常開館で実施しました。工事に伴う全館空調停止や駐車場閉鎖等に利用者の理解・協力を得ながら大きな事故なく完了しました。エネルギー効率が大きく改善し、消費電力は 2010 年度比で 29.7%削減できました。また、遮熱フィルム貼付、緑のカーテン育成、自動販売機の機種変更等で省エネルギーに取り組みました。

・建築基準法第 12 条に規定される 1 年に 1 回の建築設備定期点検及び 3 年に 1 回の建築物定期点検を実施しました。計画的な保守点検ときめ細やかな日常点検により、施設・設備の長寿命化を図りました。ホール可動席の座面張替、会議室等の椅子更新、セミナールームの音響設備等の更新、トイレの洋式化等を行い、より快適で安全な施設環境を整えました。

・来館者の動線をスムーズにし、ポスター等を見やすく掲示できるように、1Ｆロビー周辺のチラシ架配置や掲示スペースの見直しと改修を行いました。

・横浜市の帰宅困難者一時滞在施設として、受入れ対応マニュアルを整備しました。また、戸塚駅周辺混乱防止対策訓練へ参加し、関連諸機関と受入れ体制等を確認しました。災害発生時に備えて、電話交換機電源の非常用発電機電源系統への切替えや災害備蓄品の整備を行い、横浜市による非常用発電機制御盤更新（大規模修繕）に対応しました。

◆男女共同参画センター横浜南

・総来館者数は 173,764 人、有料施設の平均稼働率は 64.8%。目標（176,000 人、70.0%）達

成には至りませんでした。横浜市婦人会館当時から定期的に利用していたグループ・団体のいくつかが、参加者の高齢化により解散、活動停止となったこと等が要因と考えられます。施設利用者アンケートでは、「大変良かった」「良かった」との回答は 94.2%で、高い評価を得ました。

・築 36 年経過した施設を安全に運営するために、施設設備の計画的な保守点検管理を行い、空調機バルブ修理、玄関自動ドアモーターの交換、ガス緊急遮断弁の交換や建築基準法第 12 条点検を計画のとおり行うとともに、交流ラウンジの雨漏り、テラス手摺の修理等の修繕対応を行いました。

・横浜市の帰宅困難者一時滞在施設として、受入れ対応マニュアルを整備し、防災訓練において受入れ体制等を確認しました。

・前年度に引続き消費電力の削減に努め、2010 年度比 16.4%の削減を達成しました。

・印刷工房の印刷機が老朽化したため、新機器に更新しました。

・トレーニング室で、参加者の体の動きを、より確認しやすくするための移動式ミラーを新たに導入しました。

◆男女共同参画センター横浜北

・総来館者数は 345,007 人、有料施設の平均稼働率は 67.0%。目標（371,000 人、70.0%）達成には至りませんでしたが、総来館者数については、積極的な広報努力により、前年度を 2,454 人上回りました。平均稼働率については、減少していた夜間利用件数が徐々に増加傾向となっています。有料施設利用者アンケートでは、「大変良かった」「良かった」との回答は 93%となり、前年度比で 1.8%上昇し、利用者満足度が高まりました。

・複合施設の主たる管理者として、横浜市民ギャラリーあざみ野との緊密な連携のもと、利用者の安心・安全を最優先した管理運営を行った結果として、2013 年度は年間事故等ゼロを達成しました。

・横浜市の帰宅困難者一時滞在施設として、受入れ対応マニュアルを整備しました。また、横浜市青葉区では初となる、帰宅困難者対応訓練を関係機関（青葉区、東急・市営地下鉄あざみ野駅、青葉警察署、青葉消防署等）とともに実施しました。一時滞在施設として受入れを担い、帰宅困難者役である地域住民約 40 名の方々より高い評価をいただきました。

・建築基準法第 12 条に規定される 1 年に 1 回の建築設備定期点検及び 3 年に 1 回の建築物定期点検を実施しました。日頃から適正管理で、異常個所はなく安全が保たれています。

協会本部は、男女共同参画センター横浜の一部（126.25 ㎡）を事務室として、横浜市から行政財産目的外使用許可を受けて使用しています。
なお、使用料（25 年度　2,814,360 円）は、全額免除となっています。

＜利用者の声＞

- 素敵なホールで音の響きもよく、是非また利用したいです。（センター横浜）
- 明るくてとても感じがいい部屋で、皆と集まるのがうれしいです。（センター横浜）
- 駅に近く、清潔感のある使いやすい会場です。（センター横浜南）
- 外部からの音もなく、落ち着いて会議ができました。（センター横浜南）
- いつも清潔で、快適に、また安心して利用できます。（センター横浜北）
- スタッフも親切で、子ども連れでも安心して利用できます。（センター横浜北）

2013 年度　事業報告書

発　　行　　公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会
〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町４３５－１
電　話：０４５－８６２－５１４１
ＦＡＸ：０４５－８６２－３１０１
URL： http://www.women.city.yokohama.jp

発行年月　　2014 年４月発行